

2020年度スポーツ医学研修会の中止について

拝啓 時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、標記の件につきまして、学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会および理事会における審議結果に基づき、「本研修会中止」が決定されましたので、お伝えいたします。

まず、2020年度の第31回スポーツ医学研修会は、基礎コース7月4、5日、応用コース9月18、19、20日（修了試験）に予定され、現在参加者募集中（現時点で3名の方が申込済、2名の方が仮申込済）です。

しかし、全世界的に新型コロナウイルス感染者が増加しており、終息の見通しが立っていない状況です。今年度もこれまでに引き続きスポーツ医学研修会会場として日本体育大学の施設をお借りする予定でしたが、日体大では外部団体からの施設利用申し込みは現在受け付けておらず、何時から受けつけるかの見通しも立っておりません。

基礎コース、応用コース開催予定日までに収束の予測が立たない今日において、参加者募集および研修会開催は不可能と判断されました。

上記のような状況を鑑み、2020年度のスポーツ医学研修会の開催は中止にいたします。なお、現時点で申込、仮申し込みをされている方へのその後の手続きに関しては個別にご連絡いたします。

スポーツ医学研修会委員会 委員長 中里浩一

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
「ソルト・サイエンス・シンポジウム2020」の開催について

1. 開催概要

1) 開催趣旨

塩に関する学術・その他の情報の普及と啓発

2) 開催日時

2020年10月15日(木) 13:00~16:50

3) 開催場所

品川区立総合区民会館 (きゅりあん)

1階小ホール

4) 参加料 無 料

参加の申込みはファックスまたはメール等で事前に
 申込

2. テーマと講演内容

1) テーマ 海水・塩・ミネラルの科学

～環境・食・健康の視点から～

2) 講演内容

(1) 「海水から生まれる資源 - 新たな海水利用を

目指して-」(13:10~14:10)

講演者: 和嶋隆昌 千葉大学大学院准教授

(2) 「カルシウム・リンと健康」

(14:20~15:20)

講演者: 深川雅史 東海大学教授

(3) 「長寿を支える味覚科学」(15:40~16:40)

講演者: 三坂 巧 東京大学大学院准教授

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団

(<https://www.saltscience.or.jp>)

Fax: 03-3497-5712 Tel: 03-3497-5711

E-mail: saltscience@saltscience.or.jp

※今後の状況を鑑みて慎重に検討のうえ開催の判断を
 したいと考えております。中止となる場合は決まり次第、
 当財団のホームページにてお知らせいたします。

編 集 後 記

例年4月・5月の年度始めは、大学では新入生が入学し、初々しさが漂うと共に最も活気あふれる時期です。ところが今年はコロナウイルスによる外出自粛に伴い、各大学キャンパスは閉鎖され、ゴーストタウンのような雰囲気さえ漂っています。

まず、外出自粛が研究活動に及ぼす影響について考えてみますと、コロナ流行以前からスタートしていた実験や研究活動は中断せざるを得ず、大学院生にとっては論文執筆が進まず不安な気持ちを抱えていることでしょう。また、教員は4月上旬の科研費当選に喜んだものの、申請書に記載した計画が一向に進まず、頭を悩ませていることでしょう。私から具体的な解決法を提案することはできませんが、私自身は先の見えないことについてあれこれ考え不安に思うよりも、今現在できることに力を注ぐように心掛けています。読者の参考になれば幸いです。

次に、社会に及ぼす影響について考えてみます。東日本大震災後は、生活不活発病（廃用症候群）という病気が注目されました。この病気は文字通り、避難所での生活が長引くにつれて生活が不活発になることが原因で、筋肉が減る、心臓や肺の働きが弱くなる、骨が脆くなる、関節が固くなるなど、全身の機能が低下してしまう病気です。その後、生活不活発病という言葉を目にするのは無くなりましたが、この緊急事態下では、フレイル（虚弱）へと名称を変えて問題視されています。フレイルは

身体機能低下だけでなく、家に閉じこもる時間が長くなることにより、精神・心理的、社会的な側面に対しても弊害をもたらすためより深刻です。また、フレイルは高齢者の問題であるのに対し、今回の外出自粛はあらゆる年代に悪影響を及ぼしています。長期間の学校休校に伴う、児童・生徒の運動不足は健全な発育・発達を妨げてしまいます。一例として、小学校高学年から中学生にかけては骨量が最も増加する時期です。この時期に運動によるメカニカルストレスが加わるとさらに骨量が増加しますので、運動不足は将来の骨粗鬆症発症リスクとなります。

これらの運動不足による弊害に対して、本学会会員の先生方の中には、インターネットを介して自宅でできる体操や運動を紹介している方やテレビを介して本格的な筋力トレーニング指導を行なっている方もおられます。このような活動は、日本に数ある医学会の中でも体力医学会に課せられたミッションとも言えるのではないのでしょうか。ウイルスによる外出自粛だけでなく、地震や台風など自然災害後の生活不活発も繰り返されるかもしれません。そのような状況に対応できるよう、健康データの構築、情報発信、現場での運動指導など体力医学会は新たな役割を担う時期に来ていると思いました。

北川 淳

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.69, No.3

体 力 科 学 第 69 卷 第 3 号

令和 2 年 5 月 25 日 印 刷
令和 2 年 6 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

編 集 事 務 局

印 刷 所

後 藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社